安心とふれあいと活力を

▲2月6日、施工を行っている平野住建、今岡設計とふれあいセンターで打合せを行いました

ふれあいセンタープロジェクトチームが発足

1月31日「中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンタープロジェクトチーム」が発足され、第一回目の話し合いを行いました。

ふれあいセンターでは「地域とともに歩み、高齢者・障がい者・子どもにとって優しく生き甲斐と安心が感じられる、活力とふれあいに満ちた地域社会の実現を」「障害の有無・世代等分け隔てなく交流できる場作りを目指す」この2つを理念に開所へ向け準備を進めています。

2月6日には施工業者である平野住建様、設計・監理を行ってくださっている今岡設計様とプロジェクトチーム発足後、初めての打合せを行い、今後完成までの工程などを確認しました。

この春からの新しい環境を期待されている「おのころの家」の利用者のみなさん、デイサービスを待ち望んでいるみなさんのご期待に応えられる場所になるよう準備を進めています。

また、館内工事以外では、中川原町内のみなさまにご協力いただき建設中の「石窯・陶芸窯施設」が2月中に完成予定で、こちらの施設も皆様にご利用いただくことで、交流の場が広がります。

中川原中学校閉校から3年目、中川原連合町内会と淡路ふくろうの郷と協働で完成した「ふれあいセンター」に、幅広い世代に利用され、より多くの高齢者・障がい者がふれあい、交流できる場作りをめざします。

（担当：神代）

ふくろう新聞

＜発 行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/
メール
info@hyoufuku.main.jp

暦の上では春の立春の日、訪れたのは厳しい寒波でした。前日までの陽気はどこへ。春から冬に戻ってしまいました。
寒さと暖かさを繰り返しながら春は近づいてきます。そして春の訪れとともに、桜満開になるころ、ふれあいセンターにはおのころの家の仲間たちが越して来る予定です。
町内の皆様と「共に生きる」の心でよろしくお願い致します。

先月の棟上げからはやひと月。ふくろうの郷からも日差しに照らされ輝きを放つ銀屋根が見えています。

中川原地域の皆様が力を合わせて建てられた野外施設の建物部分が間もなく完成し、その後小屋周辺に「県民まちなみ緑化事業」による助成で芝生広場ができあがり、緑豊かな場所になります。

青空の下、地域の子ども、若者と、おのころの家の利用者、淡路ふくろうの郷の入居者、一緒に石窯を囲んでパンやピザ作りができる日をお楽しみに。

ふれあい広場桜ヶ丘 野外施設完成式のおしらせ

とき：3月15日（土）
11時～13時
場所：中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター
※当日お車でお越しの際は給食センター側へ駐車下さい

地域交流会のみなさんと大根40kgで「おでんパーティー」

▲地域の方々と一緒に大鍋で炊きました

1月29日、中川原地域の平野俊和様より、みごとな大根40kgを頂き、地域交流会の皆様とおでんパーティーを行いました。

当日は天候にも恵まれ、外で大鍋2個を使って炊きました。途中で、焼き芋も追加されました。

美味しく出来あがったおでんをみんなで堪能しました。

▲地域交流会の方々、手話講座参加者の方々と一緒に材料をつくり、交流しながらのおでんパーティーでした。

安心による福業おこしの系譜①

中川原ふれあいセンター二期事業の開業を控えて

中川原地域ふれあい便りの1月号では、「家の片づけや掃除をしてほしい、一人なのでなかなかはかどらない」との応援要請に応えたおたがいさま事業が紹介されています。ついつい、自分の遠い記憶がよみがえります。

年末の大掃除、しめなわない、門松、餅つきなどは、どこの家でも、家族総出のにぎやかさでした。子どもだった私も、この日ばかりはしんどさも楽しみも一緒のひと時であり、そして歳神さんを迎える大事な日本のしきたりと教えられました。

応援を頼まれた方も、おそらく、文化というか、古来のしきたりをしっかりと今日につないでこられたのでしょう。だからこそ、何度か利用された「おたがいさま中川原」に応援を申し出られたと思われます。

この依頼に、おたがいさま事業で顔なじみとなられた応援者が引き受けられました。

草刈りや畝づくり、病院への同行もそうですが、さらに進んで、暮らしの中に入っての応援です。応援を求められた方、応援に入られた、双方が、どんな気持ちで今年の正月を迎えられたでしょう。

『一人ひとりを大切に共に生きる』は法人設立理念であり淡路ふくろうの郷の運営理念、言い方を変えれば、『たましい』ですが、そのたましいが、『おたがいさま事業』にもつながり、第二期事業の開業を導いたと確信するものです。

『一人ひとりを大切に共に生きる』との理念には、それを掲げざるを得なかった排除や孤独とのろう者の悲痛な叫びがあり、それに寄り添った援助活動の積み上げがあったからでしょう。

ふれあいセンターの二期事業を目前にしています。法人とふくろうの郷の10周年を2年後に控えています。

そういう今だからこそ、私自身を含めて、淡路のろうあ者・淡路聴力障害者協会と手話サークルのみなさんによる援助活動をたどり、今に生かしていかねばなりません。

まずは、阪神淡路大震災の、誰もが大変な時期に、北淡町の自宅で吐血して倒れていた城本富美子さんを発見、乳がんの肺移転との診断・入院、にも関わらず、退院を求められ、24時間の援助を2カ月にわたって展開された援助活動からの学びを紹介します。以下次号

※参考文献　あれから10年そして未来へ　負けへんでvol2　2005年1月

大矢　暹

ふれあいセンター老人デイサービスへの期待の声

お風呂を利用したい

独り暮らしなので自宅のお風呂に入ることが心配。入浴中に何かあっても起こったことを考えると不安になる。

家族と一緒に住んでいれば見守ってもらえるから安心だけど、独り暮らしだと、入浴中に何かあった時のことを思うと不安でお風呂に入れない。

入浴は、デイサービスで入ったり、離れて暮らしている家族に時々、入浴施設へ連れて行ってもらったりして入っている。

ふれあいセンターにデイサービスが出来たらお風呂を楽しみに利用したい。

（90代女性）

全ユニット合同誕生会を再開したのは…

▲プレゼントをもらい喜ぶ谷信義さん

今年度から誕生会を、全ユニット合同で行うようになっています。開所当初は、毎月全ユニットで誕生会を行っていましたが、入居者個人の誕生日のお祝いを大切にしようということで、ユニットでの誕生会や「故郷訪問」の支援を行うようになりました。そういった支援も、続けていきたい取り組みです。

ある日、入居者の告別式を行うときに、他のユニットの入居者に参列をお願いすると、「あの人は会ったこともないし、告別式に参列しません。」と言われました。今までは、他のユニットの方でも、快く参列して頂けていたのに、そのような言葉が聞かれたことにショックを受けました。

同じ施設の中で生活をしてこられた方の告別式を皆さんで参列し、お別れするということは、当施設にとっては大切な支援の一つだと考えています。

しかし、振り返ると朝の会に参加されない方は、顔を合わす機会も少なく、知らないと言われることも当然だと思いました。そこで、全体で誕生会を開き、誕生日者の生い立ちを紹介することで皆さんに知っていただきたいとの思いで、係に提案し、実施することになりました。

皆さんの前でご紹介し、お祝いしていただき、嬉しそうな顔をされる入居者の様子を見て、こちらもうれしく思います。

入居者も職員も共に大切にされる施設を目指して支援を続けたいと思います。

（生活支援係主任…竹原）

▲生い立ちを語る谷妙子さん

年初め、気持ちを新たに新年会

▲年男＆年女の３名　左から福島さん、北風さん、北川さん

1月13日、ウェルネスパーク五色「浜千鳥」で淡路聴力障害者協会主催の新年会が行われました。ふくろうの郷からは入居者21名、職員6名の計27名が参加しました。

年男年女の福島さんと北風さん、北川さんが紹介され、お祝の品をいただきました。

最後に、全員が福袋をお土産に頂いて帰りました。

「ネックウォーマーをもらった。こんなの初めて見た」

「欲しかったものをもらった」と、最後まで笑顔いっぱいの新年会でした。

「笑う門には福来る」と言います。この日もたくさんの笑顔が咲きました。きっと今年も良い年になることでしょう。

（生活援助員：畠田）

▲福袋をもらって大喜びの兵頭さん

無理、書けません！だけど…

▲「書けた～」と喜ぶ
不動さん（78 歳）

1月8日に書き初めを行いました。普段の書道講座では半紙に書きますが、書き初めでは長半紙に書いてもらいました。

「字を書くのが下手だから無理、書けません！」と講座の参加を断られる方がおられますが、書き初めだからと、いつもより大勢参加されました。

皆さん、とても真剣に書かれていました。

おせち、書初め、とんど焼きと、みなさん新しい年を歩み始めました。

ふくろう大学書道講座は毎月第1水曜日の午前に開講しています。準備、展示、サポート等、是非ボランティアをよろしくお願いします。

（生活支援員…和田）

おのころの家
〒656-0025
洲本市本町３丁目 1-10
清水マンション 1F
TEL･FAX　0799-26-0956

おのころ屋
〒656-0025
洲本市本町７丁目 3-41
営業日時：月～金 9:00～18:00
TEL・FAX　0799-22-6133

東浦の名コンビ 宇野さん 宮田さん

▲スタイを製作中の宇野さん・宮田さん

布わらじ作りが得意

宇野さんは、九州で生まれ、娘時代に故郷を離れ、岡山でお仕事され、その後ご主人と縁あって淡路の地へ。それからずっと東浦で生活されています。

おのころの家には平成19年9月から利用されています。初めて来られた時、「お手玉」をとても上手に作られたことを覚えています。

最初は、週1回の利用でしたが、昨年11月から週2回に。地域のいろいろな会にも参加されていますが、今は独り暮らしで、難聴の他の人たちと相談して、みんなと一緒にいたいという思いから、1日増やされました。

布草鞋（ぬのわらじ）を作るのが得意です。また、当所で作っているストラップや人形を家に帰ってからも自分で作り、お友達にあげて喜んでもらったと話されます。年を重ねるごとに、不安も増え、将来はデイサービスを利用したいと思っておられます。

いつも二人で行動

宮田さんは淡路で生まれ、娘時代に阪神間で仕事をされていて、ご主人を紹介され、再び淡路へ。東浦で息子さんご家族と一緒に生活されています。

平成22年3月より利用され、週1回から、今は同じく週2回利用されています。

家事などできることは、何でも自分でしていると言われます。聴こえにくいということがあるから、誰からも非難されないよう自分ができることはする。という信念を持っておられます。とても凡帳面で仕事も丁寧にされます。

どんな行事も2人で「あんた行く？」と相談しあって決めておられます。ずっとずっと、お二人が元気で通っていただけるように支援したいと思っています。

（生活指導員　藤本）

中川原地域ふれあいセンターへの移転、こんな期待が

利用者の皆さんに改修工事が進んでいることを報告すると、皆が手を叩いて喜ばれました。また、草刈り作業に行っている仲間が、淡路ふくろうの郷から見える工事中の小屋のことを皆に伝えると、「早く燻製設備や石窯で焼きたてのピザを食べてみたいなぁ」「あっちに行ったら部屋が広くなるから今とは違う新たな作業をしてみたい」「人数の多い日でも皆に気兼ねなく一緒に楽しく作業できるし、地域の人達とも交流して色々情報交換できるから楽しみ」などと利用者の皆さんは引っ越す日を心待ちにされています。日々の会話の中で「ふれあいセンター」へ期待の高まりを実感しています。

（職員一同）

▲陶芸窯・ピザ石窯・燻製設備工事中の小屋

小規模作業所学習交流会に参加して　1月18日

第9回小規模作業所等学習交流会に参加しました。

徳島文理大学保健福祉学部の岩城由幸准教授による「会議や打ち合わせを効果的にするファシリテーションスキル」というテーマで講義いただきました。

ファシリテーションとは集団による協働という知的な相互作用（集団思考）を通じて知識を寄せ集め、問題解決、合意形成、教育、学習成長を促進し、人と組織の活性化を支援する活動であり、その役割を担う人がファシリテーターです。

①中立的な立場で活動を支援する。
②チームワークを引出し、そのチームの成果最大となるよう支援する。同時にメンバーの自立性も高める。
③議論が対立している場合、お互いの主張が正しくかみ合うよう連結ピンの役割を果たす。
④成果を横取りせず黒子役に徹する。

そうすることでメンバーがそれまで解決不可能だと思っていた問題を自分の力で解決できる事に気付くと動機づけられ活性化する。これに伴い、組織も活性化していきます。同じ会議を進めるにも、進め方で組織が変わっていき良い結果が得られるということ。これを私たち組織も一人ひとり意識していくことの大事さを学んだ研修でした。

（生活指導員　楠本）

▲講演中の岩城氏

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

知りあいできてよかったわ

読話教室・ミニ交流会

1月19日(日)南あわじ市福良公民館で県事業の読話教室が開催され、1月の移動相談でお誘いした難聴のＡさんＢさんも当日、元気に参加して下さいました。

講師の言語聴覚士齋藤奈奈さんより、「今日は知らない人同士自己紹介しましょう」と。Ａさんは「知った人おらんかと思ってたけど、こんなねき(近くに)におっちゃん住んどったんか？家、ひとりか？誰かおんのか？」と早速Ｂさんに話しかけられます。

Ｂさんは、「ずっと一人や。前は食べる分くらい玉ねぎしよったけどな」と会話が盛り上がっています。職員が、口話と筆談でおふたりの会話を通訳しながら、話を繋いでいきます。

自己紹介の後は、みなさんと一緒に、口を読み取る伝言ゲームを楽しまれていました。

▲「お雑煮を・・・・」口話や身振りなど色んな方法で伝えます

暮らしに便利なものを

聞こえにくくて、不便なことと言えば、家に来訪者があったときです。玄関ドアフォンが聞こえないからです。聴覚障害者のみの世帯であれば、市から屋内信号装置として支給されますが、他の方は自己負担での購入になります。

Ｙさんは、健聴の奥さんと二人暮らし。奥さんが出かけると、来訪者がわからないため、持ち運べる室内用呼び出しベルを購入され、赤く廻るランプの様子を身振りもまじえてお話して下さいました。また、職員からは難聴の方が通院時に、コミュニケーションボード(以下コミボード)を持参すると、病院の医師が書いて伝えてくれ、さらにその病院では他の聞こえにくい患者さん用にと新たにコミボードを購入されるなど理解が広まっている話をしました。みなさん非常に感心を持って聞いて下さり、携帯用のコミボードが欲しいと申し込まれる方もおられました。

皆さんが利用されている便利な物の情報を共有したり、バリアフリーの考えが広がり、暮らしやすい地域にしていきたいと思います。

（竹内）

▲「テレビの前に置いてたら、光ってわかる」と嬉しそうに説明するＹさん

☆ろう者が働く職場で手話講習会開かれる☆

ろう者の上内さんは三洋エナジー南淡㈱で働いています。話す相手もほとんどなく、毎日もくもくと仕事をするだけ。「もっとみんなと話がしたい」この思いを会社が理解してくれ、手話講習会を開いてくれることになりました。雇用されている上内さんと一緒に講師を担当しました。職場での実践的な会話などを取り入れた内容で8回にわたり開かれました。主催した会社は、「講師が同じ従業員で親近感もあり、必死で伝えてくれる姿に感銘を受けた、今後も定期的に開催していきたい」と。受講者からは「これからは手話、口話を使って沢山コミュニケーションとれたら嬉しい」とコメントを寄せられました。

（手話サークルあわじ　高見）

▲熱心に受講する従業員のみなさん

手話講師研修会に参加して（1/15）

手話を学ぼう
手話で話そう

手話奉仕員養成講座　新テキストに対応

▲熱弁をふるう石橋氏。鳥取県手話言語条例制定にも大きな役割を果たした鳥取県ろうあ団体連合会事務局長

来年度、手話奉仕員養成テキストが新しく変わるのをふまえて、兵庫県聴覚障害者協会主催の講師研修会が開かれ、淡路から担当講師 11 名参加しました。

講師であり、編集に関わっている石橋大吾氏から新テキストではイラストを多用し、受講者が映像でイメージしやすく工夫され、また添付のDVDにはろう者の自然な手話表現が収録されていることなどの説明と共に、手話がろう者の言語でありかけがえのない宝である、それを学んで欲しいという思いが、講師の話からも更に伝わってきました。地域で講師を担当する私たちも目的をしっかり把握してよりよい講座づくりに努めなければと気持ちが引き締まりました。

（手話サークル津名　平松）

センターでは来年度講師をやってみたい方を対象に講師研修会を行います。ご希望の方はセンターまでご連絡ください。
2 月 22 日（土）～
4月 21（月）まで計6回

続・地域を語る

第62号

中川原・むかし話かるた 上

北岡　肇 編
東　雅雄 繪

㋐ 淡路冨士、先山の高さ
４４８メートル

㋑ 市原は、月に一度の市
でにぎわう

㋒ 馬落ちの、お薬師さん
をまつる宝殊山・光照寺

㋓ えびすさんをまつり、
大漁を祈る厚浜

㋔ お稚児さん、的矢まつ
りの安坂明神

㋕ 漢学者、陰陽、五行、
易学の泰斗、多田鳴鳳

㋖ キュウリ加持で、にぎ
わう無量山・大照寺

㋗ 車ごと、落ちた馬を
まつる馬頭観音

㋘ 健康を、祈っておまい
りするお薬師さん

㋙ 庚申さんで名高い、一
国一宇の鳳来山・松栄寺

㋚ 才蔵さんを、まつる三
木田のお地蔵さん

㋛ 松栄寺、たぬきのやさ
しい思いやり

㋜ すもうで、淡路三役入
りした「都岩」

㋝ 千手観音さんをまつ
る、先山千光寺

㋞ 惣吉、名代のとうふ、
お殿様からごほうび

㋟ たぬきにだまされない
ぞ「しりやきもへい」

㋠ 力石、もちあげ競う村
まつり

㋡ 妻と離縁状、五合枡の
三下り半

㋢ てんてん、てんまの子
守唄、背なかですやすや
と

㋣ とんでもない、キツネ
とタヌキのばかしあい

㋤ 長野から、迎えて祠る
厚浜の諏訪明神さん

㋥ 人形浄瑠璃芝居の
中野一座

注「地域のことをかるたで知りたい」と児童たちが自分で調べてかるたにしようとしたがむずかしく、当時の洲本市立中川原小学校（位高正直校長107人）の依頼をうけ文案を作り、A4版にかるたの絵を書いて頂いた。

平成9年12月10日文科省特別活動の指定をうけ学習の一部として発表された。

※ 文言の一部を校正しています。

とんど焼き

▲ふくろうの郷建物裏の畑にて

毎年ふくろうの郷で行っているとんど焼き。

しめ縄、門松などの正月飾りを焚き上げながら焼き芋を作りました。

直火で焼いた芋の味はとても甘く、ありがたくいただきました。

今回はお餅も焼いて寒さの中、暖を取りながらのひと時を過ごしました。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました

いつもご支援ありがとうございます

▲平野俊和さまより大根をいただきました

平岡農園様よりみかんをひと箱いただきました
（写真はみかん狩りの時の物）

作品紹介

ふくろう大学 手芸講座 1月17日

雪だるまを作りました
松崎恵子さん（78歳）